

稲賀繁美助教授インタビュー

◆ 日文研の印象は？

◇ 事務機構のネットワークを作り、情報の共有化をはかるべきです。例えば、国際交流室が対外「交流」に成功するには、日文研内で孤立してはいけませんよね。事務情報の共用のために、ホームページを活用することも考えてほしい。

◆ 研究生生活とコンピュータの関わりは？

◇ 一太郎君と相性が悪く、仏文変換やデータベース検索に苦勞しています。情報課で、「入門」の他、「中級」講座を設けるといのはどうでしょうか。

◆ ご提言ありがとうございます。ところで、ご研究そのものについては、去年大きな受賞が相次ぎましたね。

◇ 実は、『絵画の黄昏』という本1冊に対して3つも賞を戴いてしまっ

た。サントリー学芸賞は、日文研の先生方がたくさん受賞されてますよね。

ルイ・ヴィトン賞は、浜沢・クロード賞の特別賞で、受賞するまでルイ・ヴィトンが何の会社か知りませんでした。皮製品？もらっていません。

りんが
倫雅美術奨励賞は、京都では特に強調したい賞で、故河北倫明氏と雅子夫人にちなんで命名されたものです。

『絵画の黄昏』は、資料館2階の「KC / 314 / In」の書架にあります。

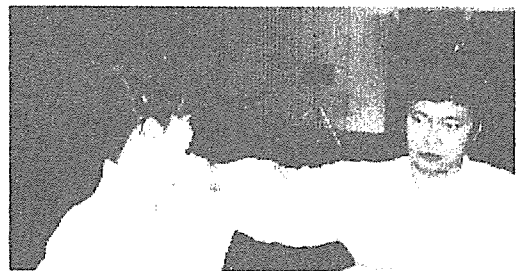


◆ 話題は変わりますが、4月から開講された合気道について教えてください。

◇ 高校まで柔道をしていました。体力勝負で選手養成が目的のような柔道に疑問を感じて、大学から合気道を始めました。体力・老若男女を問わずできるので、外国でもあちこちの都市や大学にクラブができています。留学したパリではそのようなクラブで助手をしました。留学するときには芸事を身につけておくことを勧めているんです。自然にサークルができて孤立して落ちこんでいる間なんかないですよ。

セミナー室で水曜日5時40分から6時50分まで開講しています。希望する人には実践も教えますが、テクニックよりも呼吸法を重視します。意識的に呼吸することにより、知らなかった自分の能力に気づくのです。それと、自分自身の振る舞いから「自分」の心身を守ることを目指します。

ゆっくり進んでいるので、今から参加しても大丈夫。見学歓迎です。



◆ フランス語初級講座も始められましたね。

◇ 院生の皆様のための要望で、基礎領域研究として水曜日4時から5時30分まで開いています。教職員も参加していて、I先生が出席されると掛け合い漫才のようになって傑作ですよホント。

上記2講座は、いずれも8月中旬までの開講です。理由はこの後の発言に注目！

◆ 2つの講座が8月で一度終わってしま
うのは、海外出張を控えておられるから
ですね。どのようなご予定なのでしょう
か。

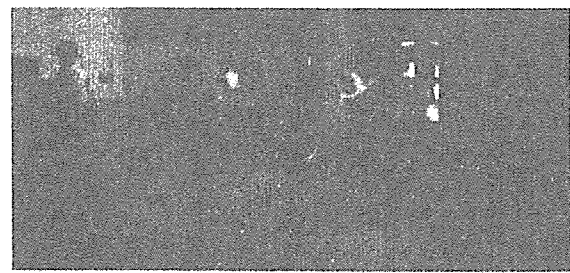
◇ 8月中旬からプラハ（1910年代
中国モダニズム）、コペンハーゲン
（外国への憧憬と日本への回帰）、ス
ロヴェニアのリュブリアナ（美学）で
国際会議に出席するのに、発表の準備
の暇がなくて困っています。そのあと、
ニューヨークに半年間滞在します。ハー
ヴァードのライシャワー・インステ
イテュートでも講演を依頼されました。

北米では、19世紀後半にフランス
から多く流入した印象派絵画について、

経路・価格を調査するつもりです。不
況のためパリで売れなかった絵画がア
メリカで受容されて、そのあとようや
く本国のフランスで評価されたんです
よ。博士論文では、1885年から売
り込みをしたテオドール・デュレとい
う人物を取り上げました。同時期の日
本でも似たような動きがあり、興味深
いですね。

ニューヨークの後は、10年ぶりに
パリに行きます。命の洗濯ですね。

◆ ご帰国後に研究成果を発表されるのを、
楽しみにしています。本日は大変お忙し
いなか、ありがとうございました。



スミエ・A・ジョーンズ客員教授インタビュー

◆ 最初に日文研の施設やサービスにつ
いてお聞かせください。



◇ 学問の場所として建物も設
備も優れていますね。のろま
でへまな人間ですから、至急
処理しなければならないこと
が多いですが、事務の方々の対応が迅
速にして親切で、いつも助かります。

図書館も素晴らしいですね。蔵書は
少ないですが、必要な資料を驚くべき
スピードで取り寄せて下さるし、ここ
までサービス出来る図書館は他に知
りません。

一つ残念なことは、人文関係で英文
や仏文で書かれた雑誌論文検索の為の
データベースがないことです。それに
英仏語のデータには日文研の出版物の
論文も載っていません。研究に関する
情報交換でもっと日文研を宣伝して、

日文研と外国との繋がりを密にして頂
きたいですね。

スペースとして一番有難いのはコモ
ンルームです。カウンターの方々のサ
ービスにも痺い所に手の届く感があ
りますが、ここに日文研の教授や客員
はもとより国中、世界中の学者や出版
・報道関係の人など入れ代わり立ち代
わり集まっていますね。こういう所
では、正式なシンポジウムと違った、自
由な交流が出来ます。

大学は知的会話が出来る所の筈です
が、同僚と実務以外の話をする時間
もないし、第一その場がありません。実
際には自由な対話から学ぶことの方が

本を読んだり研究発表を聞いたりする
よりも遥かに大きいとも言えます。日
文研は、学者の夢を叶えるような設備

があるわけです。

◆研究生活とコンピュータとの関わりは？

◇1981年に使い始めたのですから、年季は入っていますが、殆どワープロとして文書作成に使うだけです。助手にデータベースやレイアウトなど難しいことは任せていましたから。ウェブで画像など検索しますが、まだそれを原稿に取り入れる所までは行きません。

日文研でも、情報課の方がすぐに駆け付けて下さるので、他力本願のままです。ただ、山田奨治氏の古文書をスキャナーで読み取るソフトウェアの研究会には大変興味を持っています。

◆アメリカで研究活動をされるようになった経緯をお聞かせ下さい。

◇東京女子大で英語学、早稲田で英文学を専攻しましたが、フランスの文学や演劇と映画に夢中でした。フランス留学を目指して日仏学院に通ったのですが、フルブライトの奨学金を頂いたのを機に、方向転換してアメリカに渡りました。

アメリカ演劇が最高だった頃ですから、演劇を専攻する積りでしたが、アメリカ文学をやったり、18世紀英文学に移ったり、比較文学に入ったり、フランスと中国の文学一点張りになったり、急に日本文学に目を開かれたり、色気が多すぎて目移りばかりした万葉院生の時期がありました。その間に主婦になったり、通訳・翻訳業をやったり、波乱万丈ーとまでは行きませんか。

（笑）兎に角、色々楽しんでいきますから、博士号を習得したのも遅いですし、助教授になって学者を開業したのも1979年ですから、この年になって小器晩成を目指しているという程度です。

◆何年かおきに日本に帰って来られますが、その時に気付かれることは？

◇長期滞在は8年から10年に1度です。外から日本に来ますと、日本というのはすごいスピードで変化する文化だということが分かります。駅の改札から自動販売機、パチンコの機械まで、どんどんハイテクになって行くのが1980年代から目に付きました。

言葉の変化も面白いです。ジャーナリズムが流行させる「セクハラ」、「バブル」などは、日本の新聞を毎日読んでいないと何のことやら分かりませんから、来る度に驚くわけです。

言葉づかいも大分変化しています。私が学生だった頃には男子学生は仲間内では随分ぞんざいな言葉を使っていましたが、この頃大学図書館のキャフェテリアなんかで耳にはさむ会話は、会社員などが互いに話す時の言葉のように丁寧になっていますね。顔も柔和で上品になってきました。

これも、1980年頃からだと思いますが、道を歩く人たち、電車に乗っている人たちも、皆が良家に生い立った感じの顔です。

今回も変化に驚かされると期待して参りましたが、さすがに京都ですね、少しも変わっていません。（笑）いつ見ても工事中だった京都駅ビルがついに完成していたのには驚きましたが、あのビルの本質はあくまでも京都市的で、東京のアークヒルのビル群や新宿西口のビル街のようにアツと言わせるスペース・エイジ風とは違いますね。変化を感じさせないように工夫しているのが京都なのでしょう。

◆比較文学を専攻されているそうですが、その中でも、江戸時代の妖怪や春画といった俗なものに興味を持たれているようですが、その辺りについて。

◇イギリスでもフランスでも、18世紀の文学には擬古典主義と風刺が多く、理知的で喜劇的傾向が目立ちます。江戸の戯作や浮世絵や歌舞伎も同じです。基本的にはインテリが寄ってたかって

歴史も伝統も世相も洒落のめすという格好のものですから、雅と俗をないまぜにしてしまうわけです。

江戸の文化には純粋な「雅」と言える文学も美術も無いんです。そういう俗な文化を、サマになる上澄みだけ取ってこれが江戸でございと言うのはおかしいでしょう。それに、俗の俗である澁みみたいな層にこそ江戸を江戸たらしめている要素が濃く含まれていると思います。

それで、早川聞多氏の風俗資料判読会や小松和彦氏の妖怪研究会などで勉強しています。来月は笠谷和比古氏と近世文化の雅と俗の接点を扱うシンポジウムをすることになっています。

◆KBS京都テレビでコメンテーターを勤められましたが、やってみて分かったことや面白かったことがありましたらなにか。

◇いつも緊張していましたね。学生や聴衆に向かって話すのには慣れていますが、スタジオでは向かう相手がいませんから、キャスターさんの顔ばかり見て話してしまうんですね。

分かったことは、生放映のテレビには私は向いていないということでしょうか。

◆そんなことはありませんでしたよ。ユニークな視点で発言されていて、とても面白かったですよ。

◇有難うございます。素晴らしかったのは、スタッフのチーム・ワークの良さですね。プロデューサーから道具方やキャスターまで、意志の伝達が早くて、数秒の内に何でも対応してしまいます。テレビ局なら何処でも同じでしょうが、小さい局ですから余計チームという印象が強くなるのかも知れません。

京都のニュースが主眼ですから、京都についても随分勉強になりました。

今度の仕事でテレビ番組の作成の過程を見せて頂けたのも大きな収穫です。インディアナ大学が制作した番組に参加した経験もありますが、ニュース番組であることもあって、大分違います。

日本文化を紹介する6時間ほどのテレビ映画を作る企画をしていますが、KBSに協力を求めようと思っています。



【天明時代の絵本（日文研所蔵）より】

MANDALA通信

(MARvelous NIchibun DAtabase LAnd)

No. 25

平成10年6月30日発行

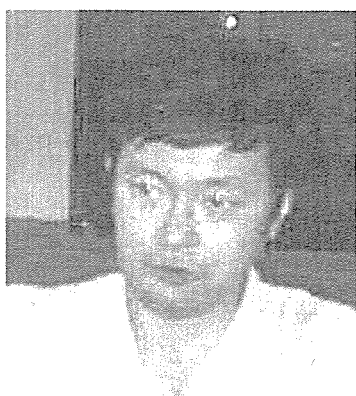
利用者と情報の新たな接点をめざす広報誌

目 次

- | | |
|--------------------------------|------|
| 1. 稲賀繁美助教授インタビュー | 2 頁 |
| 2. スミエ・A・ジョーンズ客員教授インタビュー | 3 頁 |
| 3. インターネットで情報検索 | 6 頁 |
| 4. オンライン情報検索ガイド No. 2 | 14 頁 |

NIFTY-Serve

- | | |
|---------------------------|------|
| 5. 参考図書類の配置が変わりました! | 16 頁 |
|---------------------------|------|
-



稲賀繁美助教授



スミエ・A・ジョーンズ客員教授